

# 平成 31 年度 学校経営方針

静岡大学教育学部附属特別支援学校

## 1 経営の基本

本校は知的発達に遅れがある児童生徒が社会の中でいきいきと生活していく姿をめざし、保護者や地域とともに一人一人の発達の可能性を最大限に伸ばす教育を行う。

また、静岡大学教育学部の附属学校として、教員養成にあたるとともに、大学及び関係機関と共同して教育研究に取り組み、静岡県の特別支援教育の発展と教員の専門性の向上（高度化）に資する。

## 2 学校教育目標

心身ともに健康で、積極的に社会参加する人の育成をめざす

## 3 めざす児童生徒の姿

### 『生活を切り開く人』

- 【具体目標】
- 心身ともに健康な人
  - 身の回りのことは自分でする人
  - 集団生活に積極的に参加する人
  - 意欲的に学習や作業に取り組む人

## 4 中長期的目標

### <安心・安全な学校>

(1) 安心して過ごすことができる、安全な教育環境を維持、整備する。

【学校安全の推進と緊急時体制の充実、運動の習慣化と生活習慣の定着など】

(2) 命を守る教育を推進し、いじめ防止、防災、防犯意識を高め対策の充実を図る。

【人権を尊重する教育の実践など】

(3) 教職員の心身の健康に繋がる業務改善を進める。

【チーム附属を活かした体制整備、働き方の見直しなど】

### <一人一人が伸びる学校>

(1) 一貫性・継続性・系統性のある教育のもと、一人一人の可能性を十分引き出す教育実践を進める。

【学びの繋がりを意識した系統性のある授業づくりなど】

(2) 学ぶ意欲を高め、生活に生きる確かな力(学力)を育む。

【豊かな表現力と感性を育てる指導の充実など】

(3) 地域で生きる(活きる)姿を目指した教育実践を進める。

【社会に開かれた教育課程の推進など】

<大学と連携し、保護者や地域から信頼される学校>

(1) 大学や県教育センターと連携した教育実践、教育研究、教育実習を進める。

【附属学校ならではの教育活動の充実と魅力発信など】

(2) 地域や附属学校園の特別支援教育のセンター的機能を果たす。

【地域の力を高めるセンター的機能の充実など】

(3) 地域で信頼される学校運営を進める。

【学校の魅力発信を行い、地域の理解を広げるなど】

5 平成 31 年度の重点

		取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	主な担当
安心・安全な学校	(1)	安全教育の推進と緊急時体制の充実	日常生活や学習会の指導を通して命を守る体験的な教育活動の充実。 (体験的学習の実施 年 10 回)	安全を意識し、対応できる子供が育っている。	生徒指導部 保健体育部
			実践的な研修や訓練、対応マニュアルでの確認を実施。 (研修/訓練 年 6 回)	事態に対応した判断や行動ができる。	
		運動の習慣化と生活習慣の定着	体育的活動や日常生活を通して、健康や体力づくりを意識した活動場面の設定。 (朝体育や日常生活指導の改善 年 6 回)	生活の見直しや運動への取り組みが育っている。	保健体育部 特別支援部
	(2)	人権を尊重する教育の実践	人権教育年間計画に基づく「人を大切にす る」授業実践と研修の実施。 (特別活動を含む授業実践 年 8 回) (研修等実施 年 3 回)	互いを認め合う子供同士の関わりが育っている。	生徒指導部 各学部
(3)	「チーム附属」を活かした体制整備	業務の見える化を図り、精選と効率化の実行。 (実践やアイデアの発信 年 30 回)	教育の質の向上に業務改善が繋がった。	全職員 教務部 事務室	
一人一人が伸びる学校	(1)	学びの繋がりを意識した系統性のある授業づくりの実践	校内研修を軸に個に応じた授業実践と評価による授業改善。 (一人一改善 年 3 回)	授業改善により、生き抜く力が高まった。	研究部
			キャリア教育（CM 含む）の視点を取り入れた指導の推進と研修会の実施。 (研修会 年 3 回)	子供のはたらく力が育っている。	進路指導部 教務部
	(2)	豊かな表現力と感性を育てる指導の充実	図書コーナーの充実や地域資源を活用し、豊かな心を育む読書活動の推進。 (本に親しむ環境設定や活動の推進 年 6 回) コミュニケーション手段の獲得に向けた自立活動研修の実施と外部への自己表現	本に親しむ子供が育っている。 自信を持って	生徒指導部 各学部 特別支

			場面を設定。 (研修会 年3回) (外部発信 年3回)	表現する子どもが育っている	援部 各学部
	(3)	社会に開かれた教育課程の推進	地域の施設や人材を活用した授業実践。 (活用した授業 年9回)	生活に結び付く授業の広がりが見られた。	各学部
			学校間交流や居住地校交流など連携を図り、相互に有効な交流活動の推進 (交流活動 年10回)	「有効であった」と答える本校と相手校。	各学部
大学・地域と連携した信頼される学校	(1)	附属学校ならではの教育活動の充実と魅力発信	大学教授等と連携した授業実践や学びを育むための教育研究の推進と研修の発信。 (連携した授業 年6回 職員研修の外部開放 年3回)	附属校ならではの授業実践と研修の発信が図られた。	各学部 研究部
			子供と学生との関わりを大切にした教育実習や介護等体験の支援・指導。 (学生の実態を考慮した支援・指導 100%)	教職への想いを向上させた大学生。	各学部 主事 副主事
	(2)	地域の力を高めるセンター的機能の充実	特化した専門性のある教員や外部講師による学習会、研修会の実施。 (進路研修会等 年間3回)	「参加により特別支援が分かった」とする参加者。	特別支援部、進路指導部、研究部
			相談依頼に対して「満足 100%」の支援を実施。	相談に適切に対応している。	特別支援部
	(3)	学校の魅力発信を行い、地域の理解を上げる。	授業実践や教育活動の様子を公立学校と地域に積極的に発信。 (HP、新聞、学校公開等 年20回)	公立学校や地域で本校の理解が広がった。	全職員
			地域の方やボランティア等が参加しやすい運動会やふようまつり等を実施。 (参加者の笑顔や感動を支援 100%)	「参加して楽しかった」と答えるボランティア等	保健体育部